

県内で続発した合鴨と採卵鶏における高病原性鳥インフルエンザ：岡山県岡山家保病性鑑定課 山口葵、橋田明彦

2022年10月から12月、H5N1亜型による高病原性鳥インフルエンザが県内で4例発生。うち1例は県内初の合鴨農場での発生であり、ほか3例は採卵鶏農場であった。遺伝子型は合鴨と採卵鶏では異なる2種類が確認された。死亡率は合鴨が最も高く、採卵鶏では見られなかった神経症状を確認。合鴨の簡易検査陽性率は、気管スワブで62%、クロアカスワブで0%といずれも採卵鶏と同等か低かったが、リアルタイムPCR（qPCR）の陽性率は100%で採卵鶏と同等であった。病理組織検査では、合鴨は採卵鶏と比較し、特に中枢の非化膿性炎や心筋変性及び心外膜炎が顕著であった。この原因として、遺伝子型の違いによる病原性の差や経過日数、動物種差等が推察され、このことが合鴨の高死亡率につながったと考えられた。簡易検査陽性率がqPCRと比較して低かった原因として、免疫系や夾雑物がウイルス粒子や簡易検査結果へ影響を与えた可能性が考えられた。